# 防火／防煙シャッター　手動フック式
# 取扱説明書

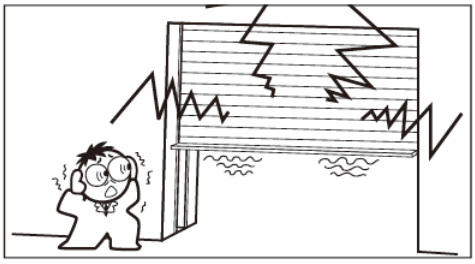
●この取扱説明書は、実際に「防火／防煙シャッター　手動フック式」をご使用になる方のためにご使用方法を説明したものです。最初にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、ご使用ください。

**⚠ 警告**

**取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負うおそれがあります。**
**次の警告事項および各項目に記載の警告事項を守ってご使用ください。**



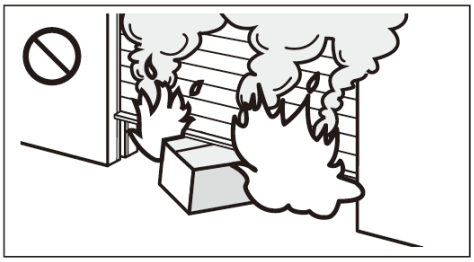
シャッターを長期間に渡って安全に使用するためには、定期点検と定期的な部品交換が必要です。
10ページをご覧いただき、必ず実施してください。



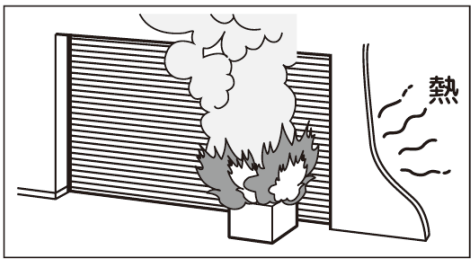
11ページ記載 の「故障かなと思ったら」にもあてはまらない異常な動作をしたり、異常な音がした場合は、直ちに使用を中止して、12 ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社に修理をご依頼ください。




製品の日常点検以外の点検・修理は専門知識が必要ですので、当社の手配によらない修理・分解・改造は絶対にしないでください。分解等により、その他部位にも故障が生じたり、損害が発生する恐れがあります。製品の点検・修理が必要な場合は、１２ページ記載の文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください。



シャッターの下で立ち止まったり、物を置かないでください。
思わぬ事故につながったり、火災時に完全に閉まらず、被害を拡大する恐れがあります。



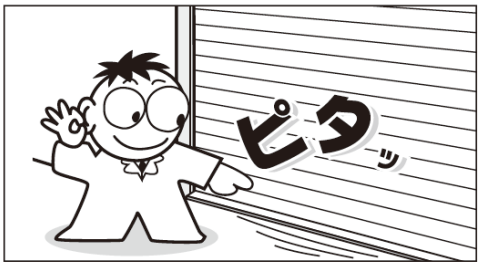

シャッターの近くに可燃物等を置かないでください。火災時、シャッターが熱せられ、輻射熱で火災等の被害が拡大する恐れがあります。

**警告**

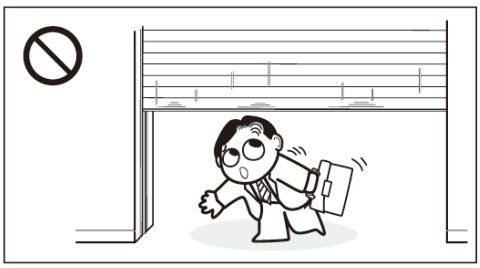
**取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負うおそれがあります。**
**次の警告事項および各項目に記載の警告事項を守ってご使用ください。**



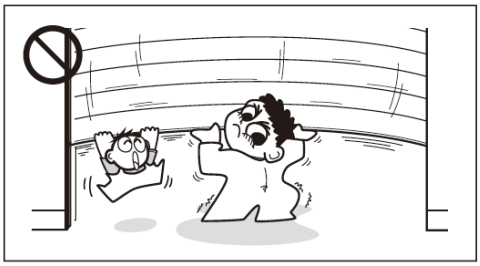
シャッターの下に人がいないこと、物がないことを確認してから操作してください。



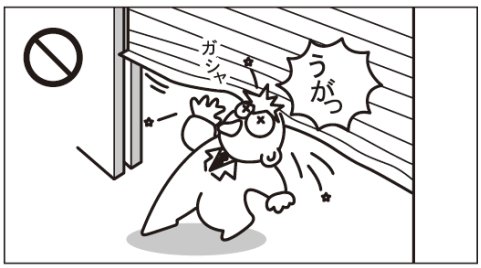

シャッターが完全に閉まるまで、シャッターのそばを離れず、目を離さないようにしてください。
第三者がシャッターにはさまれる場合があります。



シャッターが動いているときに人や車の出入りはしないでください。



シャッターが動いているときは、手で止めようとしたり、ぶらさがったり、カーテンやレールに指をかけるなど、シャッターに触らないでください。シャッターが故障したり、はさまれたりするなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。



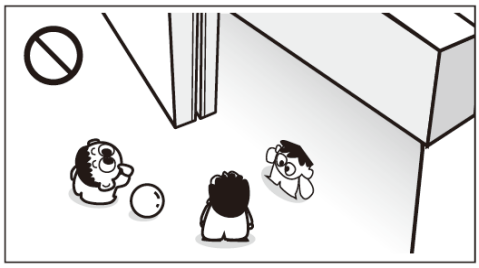

シャッターは完全に開けてから通行してください。
完全に開けずに通行すると、ぶつかってケガをしたり、物を破損するおそれがあります。



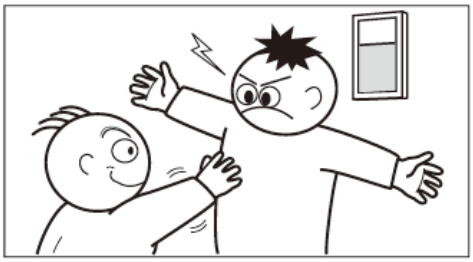
ガイドレールの溝など、部材のすき間や、動く部分に指を入れないでください。
思わぬけがをする場合があります。

**警告**

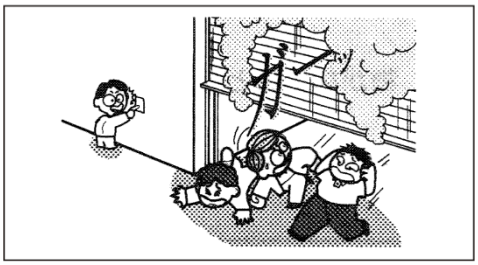
**取扱いを誤った場合に、使用者または不特定多数の第三者が、死亡または重傷を負うおそれがあります。**
**次の警告事項および各項目に記載の警告事項を守ってご使用ください。**



シャッターの下やその付近で子供を遊ばせないでください。
大けがをする場合があります。



火災時、点検時等、必要なとき以外は絶対に手動閉鎖装置に触れないでください。誤って触れてしまい、シャッターが降下してしまった場合は、7ページの「火災後のシャッターの開け方」を参考に、通常の状態に復旧してください。



火災や消防訓練などで、熱／煙感知装置による自動閉鎖、もしくは手動閉鎖装置で閉鎖した場合、シャッターは途中で止まりません。
絶対にシャッターをくぐらないでください。

**注 記**

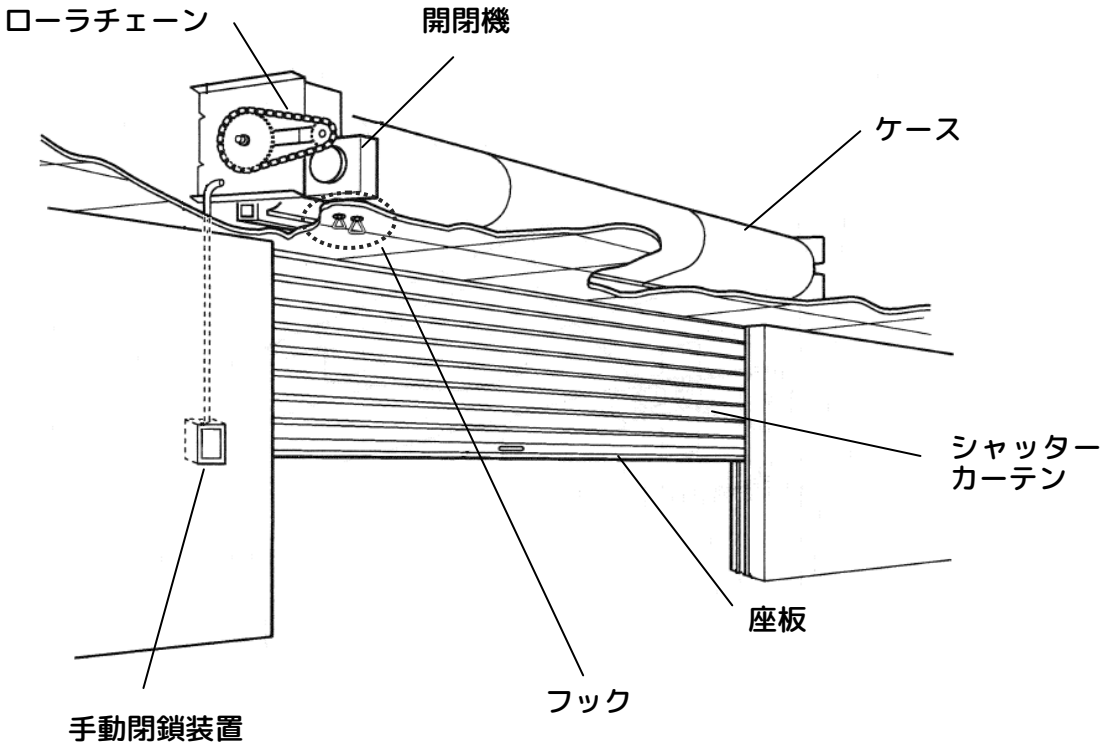
取扱いを誤った場合に、本製品に故障が発生したり、性能が発揮できない事が想定されます。

●手動式シャッターは、万が一の火災時に延焼を防ぐためのシャッターで、通常は全開状態で使用します。点検時等、必要なとき以外のご使用は防火・防煙性能の低下につながりますので、おやめください。

## 製品の概要

●「防火／防煙シャッター　手動フック式」は、火災時の熱や煙の感知、もしくは手動操作により、シャッターを閉鎖し、火災の延焼を防ぐためのシャッターです。

### シャッターの名称

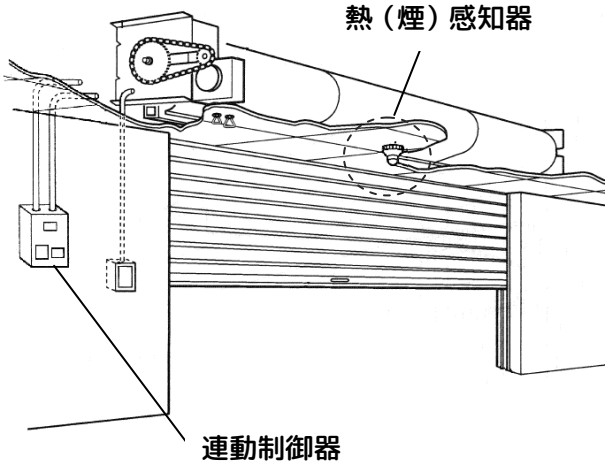



### 熱／煙感知装置

●次のどちらかの感知装置がついています。

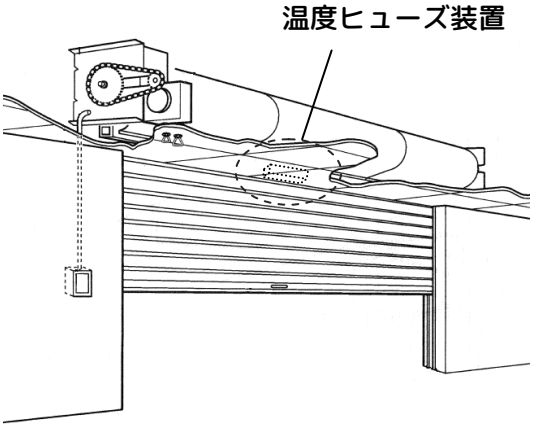
#### 熱感知器もしくは煙感知器

感知器からの信号を連動制御器が受けると、シャッターのブレーキが開放され、シャッターが自動降下します。




#### 温度ヒューズ装置

熱によりヒューズ装置が溶けることで、シャッターのブレーキが開放され、シャッターが自動降下します。



## 製品仕様

### 設計耐用回数および年数

**1500 回開閉／15 年**

**使用条件： 周囲温度　-10℃～＋40℃**

**周囲湿度　85%以下**

**周囲環境　粉塵、有害ガス、結露、凍結のないこと**

●保証値ではありません。

●「設計耐用回数および年数」はお客様による適切な維持・管理を行い、かつ専門技術者による定期的なメンテナンス（定期交換部品の交換、注油、調整など）を実施した場合の数値です。なお、沿岸部、温泉地帯、化学・薬品工場などの腐食性環境や、大気中の砂塵、煙などが製品に付着する場所、および高温、低温、多湿などの使用環境下では、記載数値を満足しないことがあります。

### 本体仕様

| | |
|---|---|
| **自重降下速度** | **５～６ｍ／分** |
| **シャッター重量** | **２５～３５kg／㎡** |

### 熱／煙感知装置

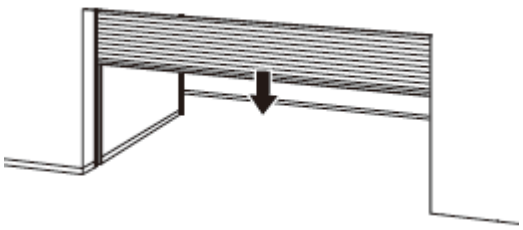
| | |
|---|---|
| **連動制御器電源** | **２４Ｖ** |
| **温度ヒューズメタル動作温度** | **＋６５℃** |

## 火災発生からシャッター降下までのプロセス

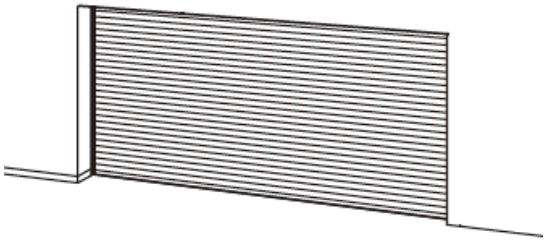
**警告** ●感知装置による自動閉鎖、もしくは手動閉鎖装置による手動閉鎖でシャッターが降下している場合、途中で止めることができません。降下中は絶対にシャッターの下をくぐったりしないでください。

### 熱や煙の感知による自動閉鎖

1．熱または煙により、感知装置が作動し、シャッターのブレーキが開放され、自重でシャッターが降りてきます。



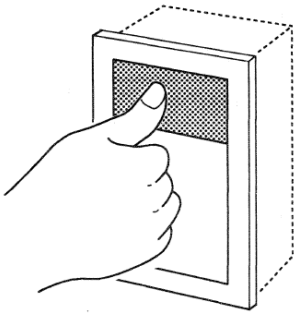
2．床面まで降下し、シャッターが止まります。(シャッターがだぶついた状態で止まります)



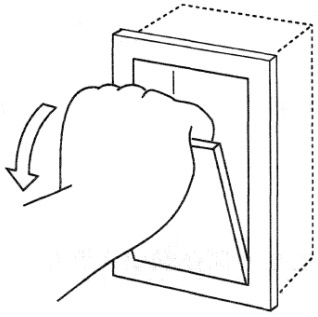
### 手動閉鎖装置による手動閉鎖

**警告** ●操作する際は、シャッターの下、まわりに人がいないこと、物がないことを確認してから操作してください。
●火災時、点検時等、必要なとき以外は絶対に手動閉鎖装置に触れないでください。

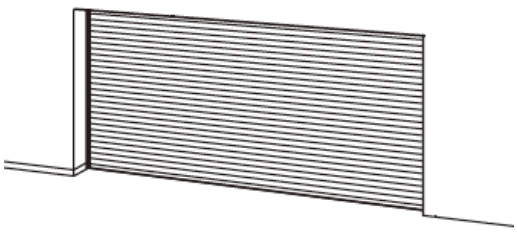
1．上部のアクリル板を押し破ります。



2．レバーを１度手前に引くと、シャッターが降下します。



3．床面まで降下し、シャッターが止まります。(シャッターがだぶついた状態で止まります)



アクリル板の交換については、１２ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください。

## 火災後のシャッターの開け方

●火災等により、熱／煙感知装置による自動閉鎖もしくは手動閉鎖装置で閉鎖したシャッターを開放するための操作方法です。

**警告**

●操作する際は、シャッターの下、まわりに人がいないこと、物がないことを確認してから操作してください。

●開けるときは所定の高さで止めて、巻き上げすぎないようにしてください。シャッターが破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●温度ヒューズ装置をご使用の場合、ヒューズ装置が溶けていると、シャッターを巻き上げても、フック棒をフックから抜くと、シャッターが降りてきてしまい、大変危険です。操作する前に必ず新しいヒューズ装置に交換してください。

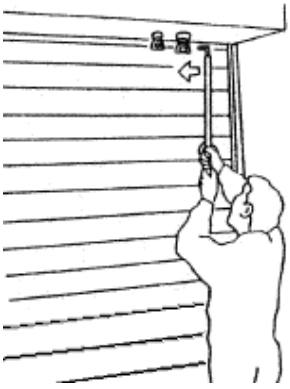
1．開放したブレーキを復旧します。

●文化シヤッター製連動制御器が設置されている場合
→連動制御器のフタを開け、内部にある「復旧」スイッチを押してください。

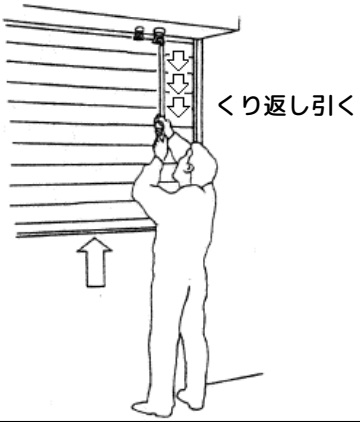
●他社製連動制御器が設置されている場合
→設置されている連動制御器の復旧方法をご確認いただき、その方法にしたがってください。

●温度ヒューズ装置が設置されている場合
→新しい温度ヒューズ装置に交換してください。

2．フック棒を巻き上げ用フック（大きい方のフック）に引っかけます。

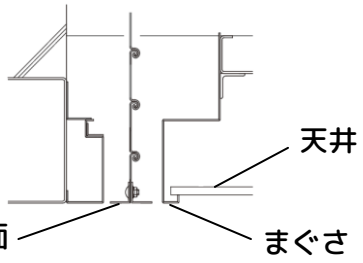


3．フック棒を下方にくり返し引きます。引くたびにシャッターが少しずつ上昇します。

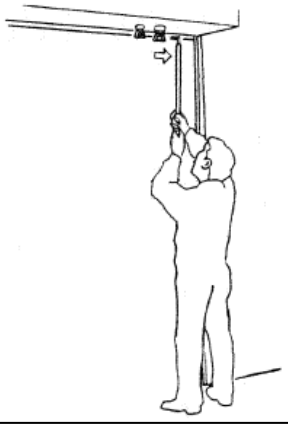



4．座板下面が所定の高さ（まぐさ下端）に達したら巻き上げるのをやめてください。
※巻き上げすぎないようにご注意ください。

＜所定の高さ＞




5．静かにフックからフック棒をはずします。



## 火災時以外のシャッター開閉方法

●火災や点検時以外での開閉方法です。

**警告**

●操作する際は、シャッターの下、まわりに人がいないこと、物がないことを確認してから操作してください。

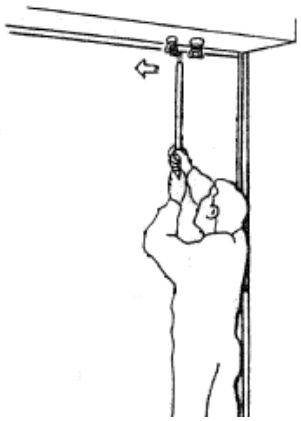
●開閉する際は所定の高さで止めて、降ろしすぎ、巻き上げすぎにならないようにしてください。シャッターが破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**注記**　取扱いを誤った場合に、本製品に故障が発生したり、性能が発揮できない事が想定されます。

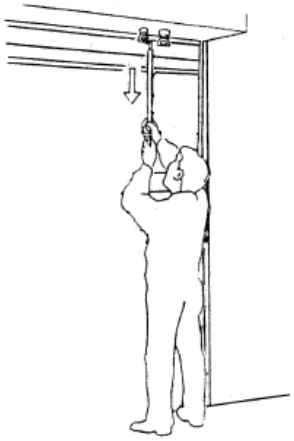
●手動式シャッターは、万が一の火災時に延焼を防ぐためのシャッターで、通常は全開状態で使用します。点検時などの必要時以外の開閉は、防火・防煙性能の低下につながりますので、おやめください。

### 閉め方

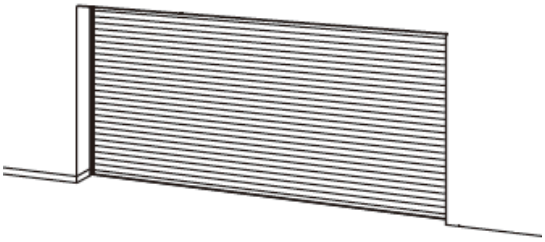
1．フック棒を巻き上げ用フック（小さい方のフック）に引っかけます。



2．フック棒を下方に１回引きます。シャッターの自重により、シャッターが降下します。



3．床面まで降下し、シャッターが止まります。（シャッターがだぶついた状態で止まります）



※途中で止めたい場合は、大きい方のフックを１回引いてください。

### 開け方

●７ページ「火災後のシャッターの開け方」の２～５の手順を行ってください。
１のブレーキ復旧の手順は必要ありません。

## 日常点検

**警告**

●必ず以下の日常点検をおこなってください。日常点検を行わないと、人身事故や重大事故につながるおそれがあります。
日常点検でシャッターの不具合を発見したら、ただちに使用をやめ、１２ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。

１．手動閉鎖装置の操作は容易に行える状態にあることを確認してください。
（火災発生時等の緊急のとき、確実な操作ができません）

２．シャッター降下ライン上に、動作を阻害する物がないことを確認してください。
（動作が阻害されるとシャッターが閉まりきらず、火災時に炎や煙を遮断できません）

３．外観について、以下の事項をご確認ください。
- 外観に、使用上有害な変形がないこと。
- 表示ラベルの脱落、破れ、はがれなどの破損がないか確認してください。読めなかったり、正しく貼られていなかったり、破損していたりしたら、新しいラベルと交換してください。

## 定期点検と定期的な部品交換について

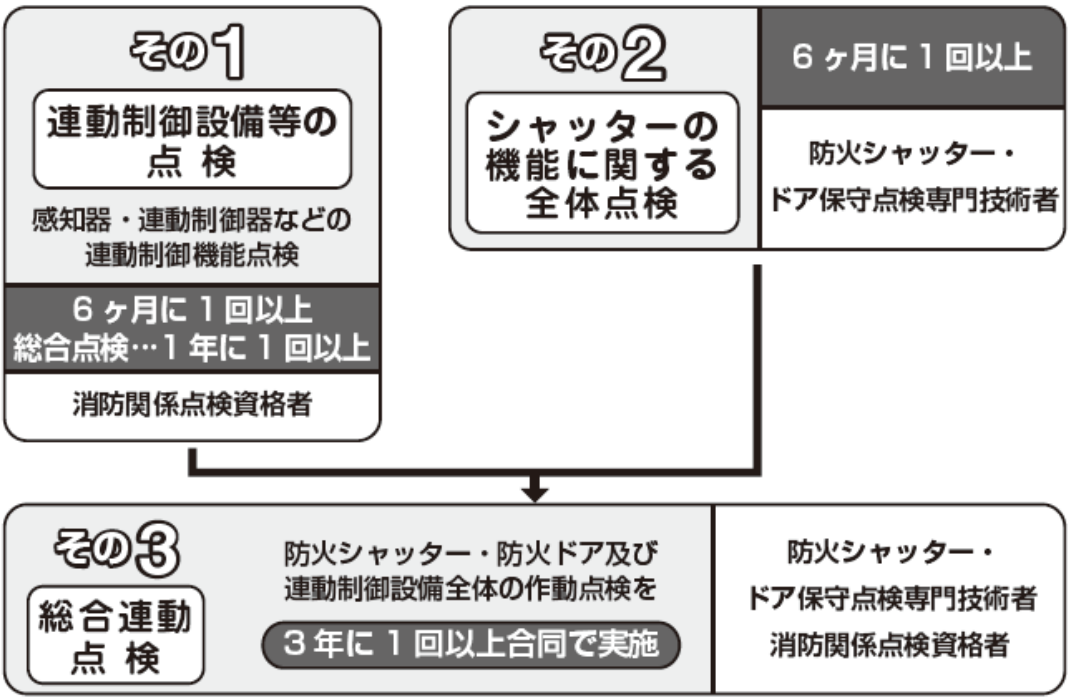
**警告**

●定期点検と定期的な部品交換は、必ず行ってください。適切な定期点検や定期的な部品交換を行わないと、シャッターが開閉できないだけでなく、急速降下などの重大事故につながる場合があります。

### 防火／防煙シャッターの定期点検について

●防火／防煙シャッターは、設置時と同じ性能を確保するために、お客様による日常点検のほか、専門業者による定期点検および定期的な部品交換が必要です。

●防火／防煙シャッターの維持管理のために、（一社）日本シヤッタードア協会より定期点検の指針が示されています。文化シヤッター株式会社では、下記による定期点検を推奨いたします。




●防火／防煙シャッターは、連動制御設備からの信号を受信して作動しますので、防災シャッターを防災システムとして維持管理するためには、防火／防煙シャッターの定期点検だけでなく、連動制御設備の定期点検も必要です。連動制御設備の定期点検については、連動制御設備の取扱説明書をご覧ください。

**警告**

**腐食が進みやすい環境における定期点検の必要性について**

●沿岸地区や高湿な使用環境など、腐食が進みやすい環境では、１日当たりの開閉頻度に関係なく、１年に２回から４回程度の点検が必要です。（回数は状況により異なります）

●腐食への対応を行わないと、サビによりローラチェーンが破断し、カーテンの急速降下へ至るなど、重大事故につながるおそれがあります。

### 定期的な部品交換について（有償）

●「定期交換部品」とは、「経過年数、開閉回数などにより、機能および性能を損なうおそれがあらかじめ想定できる部品」です。
●交換時期は定期点検契約に基づいた点検・整備が行われている場合の目安です。
●交換時期は目安であり、使用状態、使用環境によって大きく異なります。
●定期交換部品は予告なく変更する場合があります。
●製品の使用回数は、使用頻度と使用期間から算出したおおよその回数でお考えください。

[定期交換部品と交換時期の目安]

| 定期交換部品 | 交換時期目安 |
|---|---|
| ローラチェーン | 1500回開閉 または 10年　いずれか早い方 |
| 開閉機 | |
| 温度ヒューズ | １年または点検時 |

※回数、年数は部品ごとの交換の目安を示すものであり、製品全体の耐久回数を示すものではありません。

### 定期点検契約について

**⚠ 警告**

**●定期点検と定期的な部品交換には専門知識が必要ですので、弊社または文化シヤッターサービス株式会社にご依頼ください。
弊社または文化シヤッターサービス株式会社以外の点検は、人身事故や重大事故につながる場合があります。**

●文化シヤッターサービス株式会社と「定期点検契約」を結んでいただくと、お客様のご使用状況に合わせた定期点検を実施します。詳しくは、最寄りの営業所もしくは １２ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にお問い合わせください。

## 故障かなと思ったら

| 症状 | 原因 | 対処 |
|---|---|---|
| シャッターを巻き上げても降りてくる。 | ブレーキの復旧は行いましたか？ | ７ページを参考にブレーキを復旧してください。 |
| | ご使用のシャッターの熱／煙感知装置が温度ヒューズ装置の場合、温度ヒューズが溶けている可能性があります。交換が必要ですので、文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。 | |
| 手動閉鎖装置を操作しても、シャッターが降下しない。 | ただちに使用をやめ、文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。 | |
| シャッターがスムーズに動作しない。 | | |

●対処しても動かない場合、または、上記にあてはまらない場合には、１２ページに記載してある文化シヤッターサービス株式会社にご連絡ください。
●本製品の修理につきましては、部品修理または部品交換で対応いたします。なお、本製品の販売廃止後で修理不可能なものについては、新規交換が必要な場合もあります。

## 修理のご案内

# 修理のご用命はATSSへ――

突然のシャッターや窓シャッターの故障。そんな時は、文化シヤッターサービス株式会社のATSS＝アットタイムサービスシステムをご利用ください。フリーダイヤルひとつで365日素早く対応いたします。

**アットタイムサービスシステム**

**ATSS**

**修理に関するお問い合せは**

フリーダイヤル **0120-365-113**

365日いいサービス

※フリーダイヤルは携帯電話、PHS、IP電話からはご利用になれない地域がございます。その際は固定電話からおかけください。



●お問い合わせは最寄りの文化シヤッター営業所にご相談ください

| お問い合わせは |
| --- |
| |

文化シヤッター株式会社
本社：〒113-8535　東京都文京区西片 1-17-3
お客様相談室：03-5844-7111